

## 【旭区】令和3年第2回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和3年6月11日（金） 14時30分 ～ 15時50分
場 所	旭区役所新館2階 大会議室
出席者	<p>【座長】佐藤 茂議員</p> <p>【議員：5名】古川 直季 議員、こがゆ 康弘 議員、河治 民夫 議員、大岩 真善和 議員、木内 秀一 議員、</p> <p>【旭区：23名】権藤 由紀子 区長、千田 満 副区長、亀井 直樹 福祉保健センター長、富士田 美枝子 福祉保健センター担当部長、渡邊 知幸 旭土木事務所長、古屋 明弘 旭消防署長ほか 関係職員</p>
議 題	<p>【議題】</p> <p>令和3年度 旭区個性ある区づくり推進費の執行計画について</p> <p>【報告】</p> <p>1 令和3年度予算編成に向けた「区提案反映制度」の項目・対応状況一覧について</p>
発言の 要 旨	<p>【議題】</p> <p><u>1 令和3年度 旭区個性ある区づくり推進費の執行計画について</u></p> <p>大岩議員：「郊外部における働く場の創出事業」について、経済局と連携して行っていくとあるが、調査状況や日程など今後のスケジュールについてどのように考えているのか具体的に教えてほしい。</p> <p>蒲田区政推進課長：オフィス設置の事業者には話を聞いている最中で、調査委託をするには至っていない状況である。経済局と併せて調査委託を行うという話になっているが、時期についても現状は未定である。早めに取り掛かっていきたい。</p> <p>大岩議員：前任者から引継ぎもされていると思うが、今年度担当変更で話が変わってしまうと困るのでしっかりと対応してほしい。また、旭区として人口が増えるチャンスであり、働く場の創出もできると思うので、是非お願いしたい。</p> <p>「希望ヶ丘周辺のまちづくりに関する検討」について、令和2</p>

年度の事業内容を受けて、令和3年度、今後どうしていくのか具体的に教えてほしい。また、ヒアリングだけではなく事業者の選定など具体的に検討していかなければならないと思っているが、その点はどのように考えているのか。

蒲田区政推進課長：昨年度中に将来像をまとめる予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で、ワークショップ等の地域の方の参加人数が少なく、参加者から広く地域の意見を聞いてほしいとの要望があった。今年度も引き続き将来像の検討を行っていきたいと考えている。将来像を決めた後に、将来像を具体化させる計画を立てていきたい。最終的には、地域まちづくり団体を設立し都市整備局とともに取り組んでいきたいと考えている。

大岩議員：今年度担当が変わってしまったので、話が振り出しにならないように気を付けてほしい。地域から区と局の連携がうまくいっていないと聞いているので、もう少し工夫をしてほしい。

次に、旭区では廃校になった学校が多くみられる。具体的には、若葉台西中学校、ひかりが丘、左近山など団地の学校が多い。廃校になった跡地をどうするのがテーマになっている。例えば、若葉台西中学校については3代ほど前の課長から一緒に視察したりして話をしているが、担当が変わるたびに話がゼロになってしまってなかなか計画が進まずもどかしい部分がある。廃校問題について、どの程度状況把握をしていて、どのように進めていく計画なのか、考えを聞かせてほしい。

蒲田区政推進課長：地域の意見を区が集約をする必要があると考えている。例えば、若葉台西中学校は廃校になって15年が経過している。先日、現地を訪問し、会長や地域の方々から早く本格活用してほしいという、熱い想いを受けた。現在、暫定利用は行っているが、本格活用に向けての道筋をつけないければならないと思っている。具体的なスケジュールはまだ示せない状況ではある。前任が事業者や学校法人を地域に紹介するなど、活用を進めようとしたが、マッチングが上手くいかなかったという状況が繰り返し行われたと認識している。引き続き民間活用や公共

的な活用を模索していきたいと思っている。

大岩議員：廃校問題はこれから学校再編に伴って増えていくので、教育委員会からも財政局と連携をして力をいれていきたいと聞いている。全国で色々な事例があるので、方法は様々あると思う。廃校になった際に、積み立てをして財政局でお金が1億円ほどあるということも聞いているので、それを原資としてできることもあると思うのでよろしくお願ひしたい。

最後に、区役所のデジタル化対応について確認したい。区役所として、デジタル化の対応状況や課題。オンラインであれば、庁内の仕事でオンラインの利用、イベントであれば、地域の方々の打ち合わせをオンライン対応でやらなければいけない部分もあると思う。すでに対応していると思うが、現状とうまくいっていない部分があれば、課題を教えてください。

中村地域振興課長：地域の関係でのオンライン対応状況について説明する。昨年から新型コロナウイルス感染症等で区連会が中止になることがあった。その中でどのように地域に情報提供していくか模索しているところである。実際には、今年度は4月に区連会の3役でタブレットを使用した ZOOM の体験会を実施している。来月の区連会で体験会を実施する予定である。そのうえでアンケート調査を実施し、どういったことを危惧、期待しているのかしつかり把握したうえで今後の推進に繋げていきたい。区連会の3役に対しては、コロナ禍、防災等の状況を考えると中々会えないケースもあるので補完的な対応としては、タブレット ICT の導入を検討している。一方で、連長の平均年齢が70歳後半ということもあり、なかなか機械に慣れるのが難しいという状況がある。その部分をどのように習熟していくかが、課題の1つだと思っている。青少年指導員については、タブレットを利用し ZOOM 会議を行ったが、現役世代の方々が多かったので、スムーズに ZOOM 会議を導入でき、今では ZOOM を併用しながら行っている状況である。また、昨年の区民祭りについてはオンラインフェスティバルで開催し、数多くの団体に出席いただき、視聴数についても非常に多くの閲覧があった。コロナ禍で発表の機会を失われていた方々から助けられた、遠方の親

戚の方にも見せる機会ができたという意見があった。今年度については、可能であれば例年通りの区民まつりを開催したいが、保険として昨年の経験を活かして、オンライン等で開催対応できるよう進めている状況である。

大岩議員：デジタル化対応をしていかなければならない中で、高齢者×ICTというところが非常に課題になると思う。特に高齢者対応については、区役所として真剣に考えてチャレンジして欲しい。

河治議員：旧上瀬谷通信施設について、相鉄がテーマパーク誘致から撤退することに伴い、旧上瀬谷通信施設の事業に大きく影響すると思う。この件について、区としてどう考えているか。また、事業の動向について情報はるか。

権藤区長：前回（第1回市会議員会議）でもそういった議論があり、旧上瀬谷通信施設の活用については、郊外部の次なる大きなまちづくりのインパクトになるので、非常に地元の期待も大きい。また様々な地域の課題の解決に向けて、区役所としてもきちんと対応していかなければならないと考えている。また、地権者と都市整備局が中心となって丁寧に意見調整をしていく中で、今後の在り方についても民間事業者の動きも見極めつつ丁寧に進めていきたいと聞いている。該当区ということで最新の情報を聞きながら、地域の方の意見がきちんと反映され、地域のまちづくりが進展するよう力を尽くしていきたいと考えている。

河治議員：旧上瀬谷通信施設は過去に基地として米軍が使用していた経緯もあり、土壌汚染について地域として安全に利用したいという運動が始まっているが、その点についてはどのように思っているのか。また、地域からの意見は聞いているか。

権藤区長：直接は聞いていない。ただ、地域で様々な意見があることは把握している。今後の対応については、局と密に連携を取り、情報交換しながら対応していきたいと思っている。

河治議員：要望としては是非安全の立場から対応してほしい。

希望ヶ丘のまちづくりについて、地域から様々な問題点や要求が出されていると思う。どういった要望が出ているのか報告してほしい。

蒲田区政推進課長：地域が抱える課題は、ハード面のものが多い。駅前のロータリーが狭い、駅周辺の歩道については未整備の部分が多い、線路によるまちの南北の分断など、道路交通問題が多く出ている。

河治議員：ロータリーであったり、踏切であったりと安全面に関わるところが非常に大きいと認識している。そういった問題について、ロータリー自身の地権者は相鉄になっているので、改善するにあたっては相鉄の意向は大きいと考えている。これまで、旭区として色々ヒアリングしてきたと思うが、相鉄も含めてどのような方向に進めていこうと考えているのか教えてほしい。

蒲田区政推進課長：相鉄については、ロータリーの一部と駅舎部分の土地を所有しているものの、駅周辺に土地を所有していないというところで主体的にまちづくりを進めていくことは難しいと言われている。ただ、連携しながら進めていきたいという話は伺っている。

河治議員：まちづくりの関係で、駅周辺の安全面を考えたときに、今できることと、大きく根本的なことを改善しなければいけないことがあると思っているが、その辺（安全面から改善しなければいけない点）を含めて、区自身が相鉄の意見を聞きながらやっていただきたいと思っている。

「旭区で企画する主な区配事業」の中で、バスの話が出たが、左近山の他、若葉台でも昨日（6/10）の記者発表でバスの実証実験が進むとあり、このような形で進んでいくことは良い。また、団地サイドのことは積極的に進んでいるようだが、その他の郊外部の交通不便地域の問題を解決しなければならないと思っている。特に四季めぐり号について。道路局と地域と一緒にやっていて、一度廃止となり復活したが、運行状況はどうなっているのか。厳しいのではないか。

蒲田区政推進課長：目標 88 人／日のところ、現状は 55～56 人／日 で非常に厳しい状況である。

河治議員：なくなっては困る事業であり、旭区がモデルとしてリードして行って欲しい。今宿地域でも地域交通サポート事業を利用したいとの声がある。区も積極的に応援して欲しいがその点について

てはどうなっているか。

蒲田区政推進課長：今宿地域では、バスを走らせる会が立ち上がっていて、道路局の企画課と区のまちづくり担当が打ち合わせに毎回参加しており、一緒に進めていると認識している。

河治議員：是非実現していただきたい。

区役所のデジタル化対応について、個人的にはデジタル化が進むのはいいことだと思っている。しかし、デジタル化に伴い利便性が逆の方向に進んでいくこともあると思っている。例えば、コロナワクチンの予約では、横浜市の場合は一か所に集約する仕組みが作られたが、当初からサイトのパンクや中々繋がらないというケースがあった。旭区としてもデジタル化と併せて検討していかなければならないと考えているが、現場の声としてどうだったのか聞かせてほしい。

今市総務課長：区民の方からも予約の電話がつながりにくいという声を区役所にもいただいている。予約の形式については、健康福祉局で設計をしており、最近はお問い合わせも少し落ち着きを見せていることから今後はつながりやすくなると考えている。

河治議員：デジタル化については、高齢者を中心に不得手な方たちにも使いやすいよう、利便性を高めた仕組みを作ってほしい。設計をするにおいては、現場の声が必要になってくると聞いているので、積極的に現場の想いを伝えてほしい。

木内議員：「障害者ネットワーク推進事業」の中の、ボッチャの体験会を開催したということだが、どのような規模、場所、感染対策をして運営されたのか詳しく聞かせてほしい。

杉本高齢・障害支援課長：ボッチャは本来室内で行う競技であるが、今回は感染症対策を考えて、密にならないよう白根公園を利用し屋外で行った。参加人数は40名（6団体）であった。

木内議員：要望として、10月の本大会について、密にならない範囲で可能であれば見学したいので、案内していただきたい。

こがゆ議員：「地域福祉保健計画事業」の中で、地域福祉保健計画推進について、第4期の計画期間は5年間ということによろしいか。

石津福祉保健課長：第4期の計画期間については5年間である。

こがゆ議員：令和3年度から令和7年度について、令和3年10月の策定・

公表を目指しとあるが、すでに令和3年になっており、計画期間がスタートしているにもかかわらず、計画自体が公表されていない状況にあるが、これが通常なのか聞かせてほしい。計画期間より前に計画を策定してスタートするべきではないのか。

石津福祉保健課長：昨年度の新型コロナウイルス感染症の影響を受けて計画を策定していく中で、全域版に関しては概ね固まっているが、地区別計画版については、地区での話し合いが中々進まない状況で、今回策定が遅れている。旭区においては、10月の策定で行いたいということで計画を進めている。なお、現在は第3期の計画があるので、それに基づいて推進をしている状況である。

こがゆ議員：是非進めていただきたいと思う。第4期は新型コロナウイルス感染症の影響や、高齢化の影響で、今後色々な視点が必要になってくると思う。第3期との違い、第4期はどのような点に重点を置いているのか教えてほしい。

石津福祉保健課長：第4期では基本の考えが3つある。全体を通して「地域で支えあい安心して自分らしく暮らせるまち旭区」を作ろうという分かりやすい基本理念を置いている。その中で、3つの目指す姿、「誰もがともに生きるまち」、「みんなが、声をかけあえるまち」、「ひとりひとりが自分らしくいられるまち」。この3点をわかりやすい表現で伝えていくことが大切だと考えている。

こがゆ議員：新型コロナウイルス感染症の影響で格差の拡大や、貧困層がかなり厳しい生活を余儀なくされている。この計画期間中に新型コロナウイルス感染症の状況が改善されない可能性もあるため、ステージが変わったという認識を持っていただきたい。コロナの影響で計画が遅れるのは仕方がないが、それであれば、コロナを踏まえた、ウィズコロナ、アフターコロナをしっかり取り入れて、地域における福祉計画を考えてほしい。次に、「地域安全安心普及推進事業」内の、振り込め詐欺対策電話機等購入費補助金の交付について。昨年かなり人気があり予算を拡大したと思う。しかし、まだ旭区では振り込め詐欺はなくなるという状況ではない状況である。そういった点からニーズが高いと思う

が、令和3年度が始まってまだ数か月であるが、現在の申込状況をお聞きしたい。

中村地域振興課長：昨年は、当初100万円の予算で100件程度を見込んでいたが、ニーズが高く、113件の申込があった。今年度は、一昨日（6/9）時点ですでに53件の予約が入っている。今年度は、予算が150万円で150件対応していく予定であるが、申込の状況を見極めながら、執行については柔軟に対応していきたいと思っている。

こがゆ議員：ニーズがあるということなので、是非対応をお願いしたい。最後に、左近山団地における相鉄バスの自動運転PJについて。運転手なしでの運行と聞いているが、夏からの営業運行について、運行ルートは団地内か、団地外も含まれるのか。

蒲田区政推進課長：レベル2という、運転の一部自動化であり、運転手は席にいる。春に実施した試験運行では、左近山第一のバス停から第五バス停までで折り返す形だった。コロナ禍の状況で、夏に実施予定だった営業運行の時期、ルートは未定と相鉄バスから聞いている。

こがゆ議員：団地内の運行だと、利用があまりないのではないかと。どのルートを利用者は求めているのか、利用者の声もしっかりと聞いていって欲しい。

河治議員：オリパラに関わるパブリックビューイングについて。本日、神奈川県から聖火リレーをやめるという発表があった。パブリックビューイングについて、各区役所がそれぞれ主催する中に旭区も会場を検討すると聞いていたが、どのようなことが検討されているのか教えてほしい。

中村地域振興課長：神奈川県からの発表の件については、後ほど議員団会議で詳しく説明させていただく。旭区では、8月にソフトボール大会準決勝で、区民文化センターでパブリックビューイングを計画していたが、コロナ禍の状況をふまえて、中止の方向になっている。

古川議員：コロナによってさまざまな行事がなくなっていくことは、感染防止対策として正しいと思っている。しかし、逆に感染防止対策をしっかりと行った上で、様々な事業、特に子供たちに関わ



る事業についてはやってもらいたいと思っている。現場の従事者が苦勞している中ではあるが、一方でまちや経済の活力も大事だと思っているので、是非頑張ってください。

佐藤議員：2点ほど質問しようと思っていたが、他の委員から同様の質問が出たため、質問についてはない。

これから、区役所の方々はコロナ禍の中で暑い夏を迎えられるわけだが、新型コロナウイルス感染症と並行して、局地的な豪雨や大型の台風など大変な思いをされると思う。特に土木事務所の方々や消防署の関係者には感謝している。また、横浜市長選挙や衆議院選挙も控えており、区役所の方々は苦勞されると思うが、是非一丸となって区民のために頑張ってもらいたいと思っている。

#### 【報告】

#### 1 令和3年度予算編成に向けた「区提案反映制度」の項目・対応状況一覧について

木内議員：「連続立体交差事業及び鶴ヶ峰駅北口まちづくりと連携した旭区総合庁舎等再編整備」について、現在の事業進捗状況はどうなっているのか。

蒲田区政推進課長：連続立体交差事業については、令和5年に事業開始を予定していたが、前倒しで事業開始できるように動いていると道路局から聞いている。駅北口まちづくりについては、地権者と調整をしていると都市整備局から聞いている。

木内議員：区庁舎再編整備の推進についてはどうなっているか。

また、鶴ヶ峰連合自治会館が新たに変わると聞いているが、再整備状況は。

蒲田区政推進課長：前回（第1回市議員会議）からあまり大きくは進んでいないが、まちづくりと連携して公共施設の再編整備として検討すると庁内で合意をしているが、まだ検討の段階である。

中村地域振興課長：鶴ヶ峰自治会館移転については、再開発の関係で撤去になるが、移設先は鎧橋の町内会館の土地に令和4年度から市民局予算を活用し、新設として手続きを進めている。

河治議員：「白根通り拡幅事業の早期完成」について、斎藤橋付近の拡幅が完了して良かったが、まだ先もある。今後の計画、完成年度も

	<p>含めて問題点があれば教えてほしい。</p> <p>「帷子川河川改修事業の推進」について、事業スケジュールを 教えてほしい。</p> <p>石田土木事務所副所長：「白根通り拡幅事業の早期完成」について、令和4 年度の完成を目指して工事を進めている。用地が取得できてい ない部分もあるため、引き続き地権者との交渉も進めていく。</p> <p>「帷子川河川改修事業の推進」について、令和15年度の完成を 予定していると聞いている。今年度は福泉寺周辺での工事を予 定している。</p> <p>大岩議員：「徘徊高齢者や被虐待高齢者の一時預かりモデル事業」につい て、他にも計画があるのか、予算も含めて状況を教えてほしい。</p> <p>杉本高齢・障害支援課長：認知症の方々が徘徊した場合、身元は分かるが 家族と連絡を取れない等の場合などの一時的な預り事業で、既 存事業では対応しきれない部分になる。また、既存事業の具体 的な予算については局予算で詳細は把握していない。</p> <p>大岩議員：予算は旭区単体事業なのか他の区にもまたがっているのか。</p> <p>杉本高齢・障害支援課長：要望では、特別養護施設に委託をする想定で、 市全体を4方面別として500万×4カ所（計2,000万）で要求 をしていた。</p> <p>大岩議員：委託先の特別養護施設については、もうすでに決まっているの か、これから決まるのか。</p> <p>杉本高齢・障害支援課長：現状まだ決まっていない。今後の検討になる予 定である。</p>
備 考	<p>会議の議事録作成については座長に一任で異議なし。</p>